

単発、短時間、短期間で働くスポットワークの求人倍率は2.61倍
スポットワーカー平均時給は1,202円、3か月連続で通常バイト時給を上回る
-スポットワークマーケットデータレポート（2023年12月度版）-

多様な働き方の調査研究機関「ツナグ働き方研究所(<https://tsuna-ken.com/> 拠点：東京都千代田区/所長：平賀充記)」は、ここ数年で広がりを見せる「単発、短時間、短期間で働くスポットワーカーの市場」について定点観測する「スポットワークマーケットデータレポート」を毎月発表しています。

本レポートでは、2023年12月度最新データについて、とりまとめましたのでご報告いたします。

※レポート詳細はこちら：https://tsuna-ken.com/research_report/202312_spotwork-12/

【トピックス】

1. スポットワークの求人倍率は2.61倍。前年同月より0.26ポイント上昇
2. 新規ワーク数は、前年同月比+7.3%。主要職種では倉庫内・軽作業が前年比+3.5%と伸長
3. スポットワーカーの平均時給は1,202円。前月差+20円、前年同月差+10円

■ 1. スポットワークの求人倍率は2.61倍。前年同月より0.26ポイント上昇

2023年12月度のスポットワーク求人倍率は2.61倍。前月より求人数（-5.3%）が下回ったことにより、求人倍率は-0.79ポイントと4か月ぶりに前月よりマイナスとなりました。前月同月差は+0.26ポイントと上昇しています。

スポットワーク求人倍率の推移



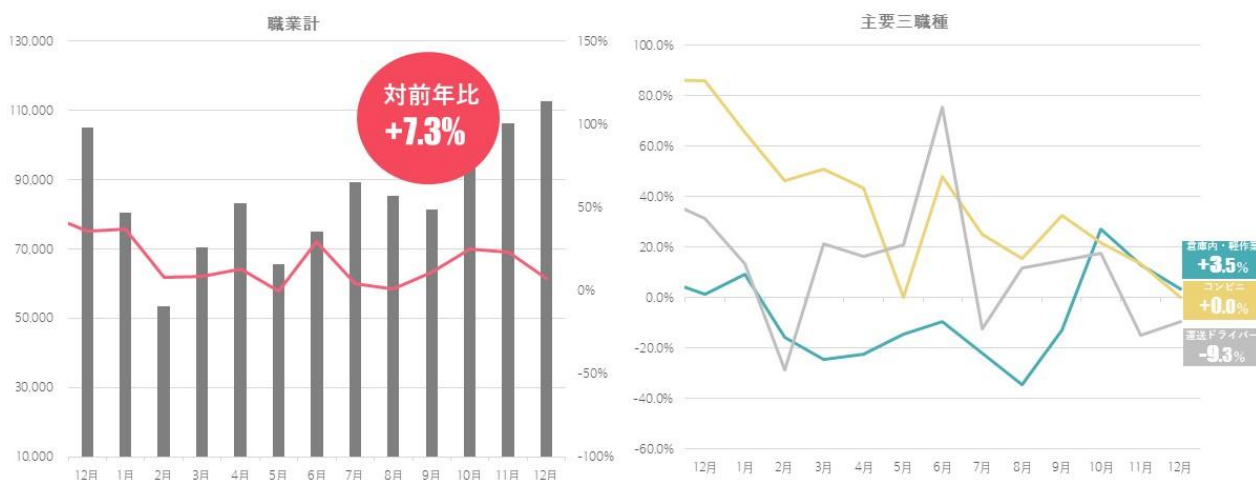
出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」2019年12月～2023年12月データを加工
■求人数：ショットワークスにおける当月のワーク出稿数 ■求職者数：当月登録UU数+前月以前登録者の応募UU数

■ 2. 新規ワーク数は、前年同月比+7.3%。主要職種では倉庫内・軽作業が前年比+3.5%と伸長

景気の先行景気の先行指標とも言われる新規ワーク数は112,492件。6月から7か月連続で前年同月比プラスを維持しています。主要職種では倉庫内・軽作業が前年同月比+3.5%と最も伸びが高くなっています。

職種別新規ワーク数伸び率推移

ツナグ
働き方
研究所



出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」2022年12月～2023年12月データを加工

© 2023 TSUNAGU GROUP HOLDINGS Inc.

■ 3. スポットワーカーの平均時給は1,202円。前月差+20円、前年同月差+10円

2023年12月度のスポットワーク平均時給(首都圏・関西圏・東海圏の3大都市圏)は1,202円。前月差+20円、前年同月差+10円となりました。通常のアルバイト平均時給1,185円(※リクルート発表「アルバイト・パート募集時平均時給調査」)との比較では17円高い結果となりました。

主要3職種で最も賃金差が大きいのは、倉庫内・軽作業でスポット1,246円、アルバイト1,210円と、スポットワーク時給が36円高くなっています。

スポットワーク・アルバイト賃金の格差比較

ツナグ
働き方
研究所



出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」三大都市圏平均時給2019年12月～2023年12月データ
リクルート「アルバイト・パート募集時平均時給調査」2019年12月～2023年12月を加工

© 2023 TSUNAGU GROUP HOLDINGS Inc.

出典)

単発バイト求人サイト「ショットワークス」2019年12月～2023年12月データ

総務省統計局「労働力調査(詳細集計)2023年(令和5年)10～12月期平均」

リクルート「アルバイト・パート募集時平均時給調査」

■スポットワークマーケットデータレポートとは

・スポットワークマーケットの定義

スポットワークとは、単発、短時間、短期間で働き「継続した雇用関係」のない働き方を指します。その中でも、雇用契約を結ばない“ギグワーク”と、単期雇用契約を結ぶ“単発バイト”の2種類に分類されます(ギグワークの代表例として、ウーバーイーツ配達員が挙げられます)。こうしたワークスタイルで働く個人、活用する企業の市場がスポットワークマーケットです。

・マーケットの現状

スポットワーカーは、コロナ禍を契機に急増、今後さらに広がりを見せていくことが予見されます。

個人) 働き方改革による残業規制、コロナ禍による休業や勤務時間減少で、追加就労意欲が増大

企業) 生産性向上観点から、ムダやムラのない=必要な時に必要な人数を配置する人件費最適化の高まり

技術) タイムリーかつオンデマンドなマッチを提供するスポットワーク求人事業者の参入

・定点観測する意義

総務省統計局の「労働力調査」では、2018年からILO基準の「未活用労働指標」を導入しました。例えば、その中にある「追加就労希望就業者」は「広義の失業者」とも言われる労働者です。現状の就労に追加してスポットで働くことは、労働者の収入安定、すなわち広義の失業率の改善につながります。一方、マクロ的に捉えると、潜在的な労働力活用は国力の向上に寄与することになります。こうした社会的意義と接続する観点から、本マーケットを定点観測し、市場規模の動向、有益なトピック、内在する課題などを可視化するデータレポートを発信していきます。

■ツナグ働き方研究所とは...

株式会社ツナググループ・ホールディングスを母体とする「多様な働き方」の調査研究機関。所長である平賀充記(ひらがあつのり)は、リクルートにて、FromA、タウンワーク、とらばーゆ、ガテン、はたらいくなど、主要求人メディア編集長を歴任、メディアプロデュース統括部門執行役員を経て、人と組織の研究家に転身。特に30年以上にわたり観察を続けてきた「職場の若者」について造詣が深い。昨今では、組織コミュニケーション研究の観点から「ポストコロナ時代のリモートワーク」について精力的な研究に従事。近著に「パート・アルバイトの応募が殺到！神採用メソッド」(かんき出版)「なぜ最近の若者は突然辞めるのか」(アスコム)。最新刊「イライラ・モヤモヤする今どきの若手社員のトリセツ」(PHPビジネス新書)を上梓。

<https://tsuna-ken.com/>

■過去の調査、リリース(一部)は以下に公開しております。

【2023年アルバイト採用ブランド力調査】

コロナ禍3年、アルバイト最強ブランドは1位ダイソー！2位セリア！

https://tsuna-ken.com/research_report/baito_2023ranking/

バイト探しの情報源はネット化加速！学生では登録型サービス利用が増加！

2023年アルバイト探しに利用した情報源調査(2019-2023比較版)

https://tsuna-ken.com/research_report/arbeit_medium2023/

【アフターコロナの多様な働き方調査】5類移行後の働き方調査

出社回帰の傾向が見られる中、働き手はちょっとテレワークを希望

https://tsuna-ken.com/research_report/telework_5/

【本件に関するお問い合わせ先】

ツナグ働き方研究所（株式会社ツナググループ・ホールディングス）

担当：和田（わだ） tsuna-ken@tsunagu.co.jp

■会社概要

社名：株式会社ツナググループ・ホールディングス

住所：〒100-0006 東京都千代田区有楽町 2-2-1 X-PRESS 有楽町 3 階

代表者：代表取締役兼執行役員社長 米田 光宏

資本金：697,256 千円

従業員数：690 名/グループ合計（2023 年 9 月 30 日現在）

URL：<https://tghd.co.jp>

【取材・報道関連に関するお問合せ先】

株式会社ツナググループ・ホールディングス

広報担当 Mail：tghd-info@tsunagu-grp.jp